



平成 17 年度日本写真測量学会関西支部講演会(11 月 4 日(金))開催報告

## 測量技術者・研究者スキルアップのための講演会 ～ 現 状 と 将 来 ～

さる 11 月 4 日(金)、『測量技術者・研究者スキルアップのための講演会～現状と将来～』が、日本測量協会関西支部のご後援の元、エル・おおさか(大阪府労働センター)において開催されました。

### (1) 開催の経緯

日本写真測量学会関西支部では、測量技術に関連する情報提供を目的として、リモートセンシングや GIS・デジタル写真測量などの講習会や講演会を、年に数回の頻度で企画・開催してきています。当支部におけるこれらの活動は、空間情報技術に関する啓蒙活動の一環として位置づけられており、測量技術者・研究者の技術力の向上と維持に何らかの形で寄与できるものと考えております。

一方で、昨年来、日本測量協会が中心となって「測量 CPD(継続教育)制度」が展開されてきており、当学会本部においてもこれと連携を図ることとし、複数の学習プログラムが認定されています。また、継続教育制度は、新たな人材育成という時代の要請に沿った取り組みと位置づけられており、これからの技術者・研究者に必要とされる制度と指摘されています。しかしながら、CPD 認定の学習プログラムは、主に東京を中心に行われており、地方の技術者・研究者にとって、講習会やセミナー等に参加する機会は決して多くはありません。したがって、当支部の活動においても、「測量 CPD(継続教育)制度」は大きなよりどころとなります。

このような背景から、当支部では、「測量 CPD(継続教育)」の重要性について解説する講演会を開催することにいたしました。さらに「測量 CPD(継続教育)」にリンクして日本測量協会が企画されている学習プログラムの内容の一端を知る機会を設け、「測量 CPD(継続教育)」における日本測量協会と日本写真測量学会との関係、さらには関連する学協会との関係を明らかにし、測量技術者・研究者、そして関西支部としてのこれからのあり方について考える機会を設けることにいたしました。

## (2) 講演会の内容

講演会は、以下のプログラムの通りに行われました。

### プログラム

「測量技術者・研究者スキルアップのための講演会 ～現状と将来～」

13:00～13:05 開会の挨拶 (近畿測量専門学校 山下 恵氏)

13:05～14:05 「測量技術者の継続教育 (CPD) のあり方」

講師: (社) 日本測量協会 小野 邦彦 氏

14:15～16:15 「フリーウェアの現状とその可能性 ～スキルアップのためのフリーウェア利用を目指して～」

講師: 東京大学大学院工学系研究科 布施 孝志氏

16:20～16:55 総合討論 ～測量 CPD 発展に向けての取り組み方～

進行役: 総合地球環境学研究所 吉村 充則氏

16:55～17:00 閉会の挨拶 (摂南大学 熊谷 樹一郎氏)

日本測量協会の小野専務理事からは、測量技術者にとってなぜ継続教育が必要なのか?について、先ずアリとキリギリスの話为例に挙げて、ユーモアでかつ分かりやすい説明がなされました。ご講演の中で、測量界の現状を、測量士・測量士補の登録者数や測量業登録業者数の推移、また市場、技術、社会の変化から示されました。さらに、測量教育の現状についての説明が加わり、測量技術者にとって、幅広い知識、高い技術能力を持つ専門技術部門の資格所得が重要であることを提案されました。つまり、測量士の資格取得後も、変わりゆく社会や技術に対応できる技術者として、継続した教育が必要である、ということです。そして、日本測量協会を中心に展開されている「測量 CPD (継続教育) 制度」について、技術力の評価方法や CPD 継続教育のための学習プログラムなど、詳細に解説されました。会場では、必死にメモを取る参加者も多数おられました。

東京大学大学院の布施孝志先生からは、測量技術者・研究者にとって大変役立つフリーウェアを多数ご紹介いただきました。これらのフリーウェアは、日本測量協会発行の月刊「測量」で、2年前から連載されており、布施先生ご自身や研究室の院生たちが実際に研究の中で活用されているものです。ご講演は、それぞれのソフトウェアの機能から応用事例のデモンストレーションまでを含めた内容でまとめられ、ソフトウェアを一つ紹介する度に、「こんなことまでフリーのソフトでできてしまうんだ・・・」といった驚きの連続でした。講演会の後、学生参加者からは、「無理だと思っていた解析処理が、これでできます!」と、喜びの声もありました。

お二人のご講演の後、「測量 CPD 発展に向けての取り組み方」として、総合討論を行いました。限られた時間の中で、次の3つの柱を中心に、討論は進められました。

---

測量 CPD 継続教育制度によって、

- 1) これからの測量業界はどのようになるのか？どのようになることが期待されるか？
  - 2) 測量技術者教育を担う大学・測専は、どのように対応していくべきか？
  - 3) 学会（特に支部）はどのように関わるべきか？
- 

小野専務理事には、先ず上記の柱に対して、測量協会としての見通しを概説いただきました。また、以下に記す参加者の方々から頂いたご意見・コメントに対しても、随時対応いただきました。

1) については、企業の立場、測量関連協会の立場の方々から、次のコメントをいただきました。

- a. 東京で開催する講習会については、交通費や所要時間の関係で現実問題として参加しにくいのが現状。関西で講習会を実施する意義の1つは、そこにもある。
- b. 測量継続教育の重要性については認識しているが、関西の測量業界の中小零細企業は、大幅な受注減と利益減により、講習会等に参加させる余裕がないのが現状。今のような状況で、CPD ポイントの多寡が受注の際の大きな要因になると、益々東京資本の大手の会社と差別化されてしまうのではないかと。運用に際しては、工夫をお願いしたい。
- c. 中小零細企業でも技術者の再教育が出来るように、講習会等の費用、日程についても工夫をお願いしたい。
- d. 技術はもちろんのこと、技術者の個性も磨いていく必要があるのではないかと？
- e. 一級基準点測量などの業務が行える技術者育成のためにも、関西地域においてかつて実施した基準点に関する講習会のように、よりスタンダードな技術に関する講習会の開催が望まれるのではないかと？

2) では、大学および測量専門学校の立場から、教育の現状、測量技術者育成に対する取り組みについて、コメントをいただきました。

- f. 大学での測量技術に関連する科目・実習は、決して多くない。関西発となるような特色のある講習会を開催してはどうか？
- g. 地方での教育機会を増やすためにも地方の教育機関もそれぞれの地域で積極的に講習を行うなどして、地方のレベルアップに貢献する必要がある。
- h. 高い教育レベルを維持するために、教育者自身も継続教育を受けてさらなる能力向上に努めるべきだろう。
- i. 測量士の資格取得を目的とするだけでなく、技術者が日々努力していく姿勢やそれを支援する環境整備が必要。
- j. 大学などで測量を専門とする教育者がほとんどいないのが現状。

k. 測量実習に使う器械台数の不足。最新技術は高価なため、教育現場では取入れが困難。

3) は、学会支部としてのこれから取り組みについて紹介いただきました。

l. 今後の支部活動における講習会・セミナー等を CPD 学習プログラム単位の認定へと展開させていくことを念頭に、現在企画中の講習会について簡単に紹介。

m. オープンソース GIS の「GRASS」や、今夏測量協会発行の「3D 測量シミュレータ」などの講習会開催を予定。

以上のとおり、多くの参加者の方々からのご意見・コメントなど頂き、総合討論は大変有意義な場となりました。

こうして講演会は、講演者 2 名、参加者 48 名（内、学生参加者 14 名）によって、大盛況の元、成功裡に終了することができました。

また本講演会を通して、自己研鑽による継続教育・スキルアップへ繋がることを期待し、今後の支部活動における講習会をより一層充実させたものになるように企画していきたいと考えております。



図-1 公演会会場と両氏によるご公演の様子

総合討論では、多くの方々からご意見・コメントをいただきました。



図-2 総合討論の様子